子どもたちの織りなす音色が地域を盛り上げ、歴史をつなぐ!

いけだ学園 池田市立 呉服小学校 吹奏楽部

正門を入ると、音符記号が描かれた「池田市立くれは音楽堂」が印象的な「池田市立呉服小学校」。この小学校には、歴史と伝統のある吹奏楽部があり、今もなお歴史を受け継いでいる。

1947年に、吹奏楽を全国に広めた、吹奏学の神様と言われる、松平正守先生が吹奏楽部を創設。1961年に「春の吹奏楽～1000人の合同演奏～(現・3000人の吹奏楽)」、翌年に「アマチュアトップコンサート」に出場し、以後毎回出演し続けている実績がある。1970年の日本万国博覧会の開会式にも出場し、児童が昭和天皇へ花束を贈呈した。

現在、60人を超える吹奏楽部を率い、指導にあたっているのは、赤穂(あかほ)和美先生。同校の顧問を受け持った当初は、「正直、これほどの伝統ある吹奏楽部の顧問を受けて、潰すわけにはいかないというプレッシャーもありましたが、『君しかいない』と言われ、お受けしました。1年目は本当に大変でしたが、講師の方に教えてもらいながら、分からないながらも、2年目にコンクールで良い成績を出せました」と話してくれた。このように、歴代の顧問の先生が山あり、谷ありの中、築いてきた土台があり、そして、先輩たちの演奏する姿、音色に魅了された後輩たちが吹奏楽部に憧れ、入部したいと思える環境と子どもたちがいてこそ、吹奏楽部は続いてきたのだ。こうして長く続いているからこそ、両親やおばあちゃんが呉服小学校の吹奏楽部出身ということや、「親子で地域の定期演奏会に出られて感激です」と言う方もいるのだとか。

今から4年前の2010年には、全国への切符を手にした。また、この年、シンガポール教育省に招待され、『エスプラネードホール』で演奏した。この時も、地域の協力や寄付があって、実現できたそうだ。地域ぐるみで、吹奏楽部を応援している。ここ池田市には音楽が根付いているということだろう。

赤穂先生は、これからの目標として、「まずは、今年のコンクールでは、金賞を取り、全国へ!」と意気込む。「私の知らない所で、昼休みにリーダー会議をしたりしているよと、担任の先生から聞かされたのですが、今年は、自主的に行動できるメンバーが多いので、チームとしてのまとまりがあります。去年は全国へは行けなかったので、今年は何としても行きたいですね。そして、私もずっと続けられるわけではないので、後継者を育てることも大きな課題です」。

撮影中の赤穂先生からは、厳しい指示が飛び交い、少し驚いたが、取材を進めるにつれ、先生の愛情と明るい笑顔に包まれていることに気づかされた。部長、副部長からも、怒ると怖いと言わしめるものの、そこには、信頼と尊敬が感じられた。「いつも、礼儀、挨拶、マナーについても厳しく指導しています。演奏だけが良くてもあかんのよと」。熱意のある先生の頑張りが子ども達にも伝わり、吹奏楽が好きだという子どもたちの笑顔と真剣に練習をする姿に癒しと刺激を受けた取材だった。『クレハ』も、呉服小学校吹奏楽部を応援しています!

6年生／部長
桑名あいかさん(写真右)
【クラリネット】
6年生／副部長
四方希望さん(写真左)
【ユーフォニウム】

音楽会で見た吹奏楽部の上級生の演奏に憧れた桑名さん、赤穂先生にリコーダーを褒められ、誘いを受けた四方さん。今、この2人が、総勢67名のチームを引っ張っている。赤穂先生について聞くと、「怒ったら怖いけど、面白くてやさしい」と2人は笑う。「吹奏楽を始めて、礼儀が身に付いた」(桑名さん)。「演奏を聞き、みんなが笑顔になってくれたら嬉しい」(四方さん)。「8月30日のコンクールでは、金賞を取って、全国大会へ行きたい」と熱い想いをまっすぐな眼差しで話してくれました。

継続は力なり!
コツコツとした積み重ねが大切

赤穂(あかほ)和美先生

音楽教員として勤務。2年前に退職後も再任用で呉服小学校吹奏楽部の顧問を12年務めている。過去には、金管クラブや合唱クラブの顧問として活躍。厳しくも愛情溢れる指導で慕われている。

吹奏楽部がここまで続けてこられたのは、保護者の皆さん、地域の方々の理解とバックアップがあってこそです。心より感謝申し上げます。呉服小学校吹奏楽部が末永く続いていくためにも、これからもご協力賜りますようお願い致します。8月のコンクールでは、去年叶わなかった全国大会へ行けるよう頑張りますのであたたかいご声援をお願い致します。